

第11回

PRESS RELEASE 2018.09.06



人と都市から始まる舞台芸術祭 フェスティバル/トーキョー 18

2018年10月13日(土) → 11月18日(日) 37日間

東京芸術劇場、あうるすぽっと、南池袋公園 ほか

フェスティバル/トーキョー（以下 F/T）は同時代の舞台作品の魅力を多角的に紹介し、舞台芸術の新たな可能性を追求する舞台芸術祭です。11 回目の開催となる F/T18 は「脱ぎすて^{また} 跨ぎ越せ、新しい人へ」をテーマに、平成 30 年 10 月 13 日（土）～ 11 月 18 日（日）までの 37 日間、国内外のアーティストが集結。F/T でしか出会えない国際共同製作プログラムをはじめ、まちなかで舞台芸術を鑑賞できる作品、アジアのアーティストの新しい波に注目した作品、市民参加イベントなど、多彩なプロジェクトを展開していきます。

※フェスティバル/トーキョー 18 は東京芸術祭 2018 の一環として開催されます。

www.festival-tokyo.jp



広報に関するお問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 広報：小倉明紀子、神永真美
TEL：03-5961-5202 FAX：03-5961-5207 MAIL：press@festival-tokyo.jp
〒170-0031 東京都豊島区目白 5-24-12 旧真和中学校 4 階

フェスティバル/トーキョー（F/T）は、東京で開催される国際的な舞台芸術フェスティバルとして、舞台芸術の魅力を多角的に提示し、国境、世代、ジャンルを越えて多様な価値が出会い、互いに刺激しあうことで、あらたな可能性を拓くことを目指しています。

今年で10年目、11回目の開催にあたるF/T18は、ディレクターが交代し、「脱ぎすて跨ぎ越せ、新しい人へ」をテーマに掲げます。

舞台芸術の大きな魅力は、集団創作という点にあります。ソロパフォーマンスの場合でも大抵スタッフが付いていますし、なによりも、観客の立ち会いが不可欠です。人と人が出会い、同じ時間と場所を共有することで初めて成立する、このちょっと「面倒な」メディアは、個の表現と、小さな社会とを、つねに内に含んでいます。

いま世界は激しい転換期を迎えています。これまで当たり前だと思ってきたさまざまな価値や仕組みがゆらぎ、物事の考え方や分け方、進め方があちこちで空回りしています。社会をここまで発展させてきたある種のやり方がもう限界に来ていることに、私たちは気づいています。わかりやすく安心な次の地平はまだ見えていませんが、とはいえなんだかワクワクするような面白い取り組みが、世界中のあちこちですでに起こり始めていることも、私たちは知っています。「新しい人」は、たんなる年齢や世代の問題ではなく、きっとどこかその先にいるはずです。

この情報と速度の過剰な巨大都市トーキョーで、ともすると私たちは、幸せとは何かを問うことすら忘れていきます。いまあらためて、この「面倒な」メディアを通して、この場所を起点とするどんなフェスティバルが可能でしょう。F/Tはこれから数年かけて、次の形を探っていきます。共同ディレクター体制もそのための試みのひとつです。

「新しい人へ」向かって、都市の日常の中につかのみ発生する、さまざまな「小さな社会」にぜひお立ち会い下さい。

ディレクター 長島 確
共同ディレクター 河合千佳

01 ごあいさつ

アジアシリーズ vol.5 トランス・フィールド

02	『MI(X)G』 ミックス	コンセプト・演出：ピチェ・克蘭チェン	ダンス
----	------------------	--------------------	-----

03	ショプノ・ドル『30世紀』	脚色・演出：ジャヒド・リボン 原作：パドル・ショルカル	演劇
----	---------------	--------------------------------	----

04	『ボンブン・イン・トーキョー』	キュレーション：ローモールピッチ・リシー	音楽・レクチャー・映像・伝統舞踊
----	-----------------	----------------------	------------------

	『フィールド：プノンペン』		展示・トーク・映像
--	---------------	--	-----------

05	「境界を越えて～アジアシリーズのこれまでとこれから～」		映像・トーク
----	-----------------------------	--	--------

まちなかパフォーマンスシリーズ

06	『A Poet: We See a Rainbow』 ア・ポエット：ウィー・シー・ア・レインボー	作・演出・出演：森 栄喜	パフォーマンス
----	---	--------------	---------

07	『ラジオ太平洋』	作・演出・出演：福田 毅	演劇
----	----------	--------------	----

08	L PACK.『定吉と金兵衛』	作・演出・出演：L PACK. 原案：落語『茶の湯』より	茶会・展示
----	-----------------	---------------------------------	-------

09	『テラ』（仮）	坂田ゆかり（演出）×稲継美保（出演）×田中教順（音楽） 原案：三好十郎『水仙と木魚』ほか	演劇
----	---------	---	----

10	マレビトの会『福島を上演する』	作・演出：マレビトの会	演劇
----	-----------------	-------------	----

11	ナシーム・スレイマンプール×ブッシュシアター『NASSIM』 ナシーム	作・出演：ナシーム・スレイマンプール	演劇
----	--	--------------------	----

12	ドキュメントメント『Changes』 チェンジズ	監督・撮影・編集：山本卓卓	映画
----	-----------------------------	---------------	----

13 「参加する・学ぶ」 シンポジウム／ディレクターズ・ラウンジ

14 F/T サポーター／ディスカバリー・プログラム

15 連携プログラム

18 チケット情報

19 フェスティバル／トーキョー実行委員会、事務局クレジット

20 開催概要

21 お問い合わせ

今年もフェスティバル／トーキョー（F/T）の季節がやってまいりました。

11 回目の開催となった F/T は、すっかり池袋の秋の風物詩となりました。このような日本最大級の国際的舞台芸術の祭典を豊島区で開催できることに大きな喜びを感じております。

豊島区は「マンガ・アニメ」、「祭事・芸能」、そして F/T に代表される「舞台芸術」を三本の柱に 2019 年「東アジア文化都市」に立候補し、昨年 8 月、文化庁より国内都市に選定されました。2019 年東アジア文化都市、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、これらの文化芸術が持つ力を結集して、豊島区は「国際アート・カルチャー都市」の実現に邁進してまいります。

最後に、開催にあたり、ご尽力、ご協力いただいた、関係者の皆様、地元の商店街、企業、団体の皆様に衷心より御礼申し上げます、あいさついたします。

フェスティバル／トーキョー名誉実行委員長
豊島区長 高野之夫

F/T は 2009 年のスタートから、過去 10 回において 270 作品を上演し、合わせて 61 万人を超える観客、参加者の皆さまにお集まりいただきました。

第 11 回となる F/T18 では、アジアの舞台芸術シーンを牽引するアーティストの国際共同製作に加え、劇場を飛び出して行うプロジェクトを中心に、国内・海外の様々なアーティストの作品を紹介いたします。

このフェスティバルの開催を通じて、東京から新しい価値を世界に向けて創造・発信するとともに、国内外各地のフェスティバルや劇場、文化機関とのネットワークをさらに強め、地域や国境を越えた国際的な文化交流に貢献することを目指し邁進してまいります。

開催にあたり、文化庁、国際交流基金アジアセンター、ご協賛企業ならびに地域の各団体をはじめ、多大なご支援・ご協力をお寄せ下さっている皆様がこの場をお借りしてあらためてお礼申し上げます。

フェスティバル／トーキョー実行委員長
公益財団法人新国立劇場運営財団 顧問、アサヒビール株式会社 社友 福地茂雄

フェスティバル／トーキョーは、世界的な文化創造都市を実現するために、東京芸術文化評議会の提案により、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、豊島区及び芸術団体が協力して、2009 年 2 月に誕生しました。

国内外から時代を切り取る先鋭的なプログラムが集まる国際舞台芸術祭として関心を集め、芸術文化を創造できる環境が備わった東京の姿を示してきました。

2016 年からは、東京都が目指す都市型総合芸術祭である「東京芸術祭」に合流し、新たな価値観をはぐむ交流と参加の場の拡充を段階的に展開しているところです。

舞台芸術の奥深さを体感し、人が生きていくために芸術が不可欠であることを再認識する契機となるフェスティバル／トーキョーに、今年もご期待ください。

アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）機構長
三好勝則

F/T は、大きな転換期に入る。ディレクターの交代も含めて、フェスティバルのあり方を問い直す時期に来ていて、その転換は 2021 年に向けてのものである。2 年から 3 年をかけて根底的な転位が成し遂げられれば、2021 年以降の姿が見えてくるだろう。そのグランドビジョンは新しいディレクターが中心になって作り上げてくれることになっていて、F/T18 の使命は、そのための本当の準備に入ったと宣言することにある。今年のテーマは「脱ぎすて^{また}越せ、新しい人へ」、「新しい人」をテーマに据えて 3 回目で、最終回となる。今回は、バングラデシュからの演劇や都電を使った作品などいくつかの新しい試みをしている。また、転換に向けてのシンポジウム等も計画している。

ぜひ会場でお会いしましょう。

フェスティバル／トーキョー 18 エグゼクティブ・ディレクター
市村作知雄

アジアシリーズ vol.5 トランス・フィールド

国際交流基金および国際交流基金アジアセンターとの共催で、アジア各国の舞台芸術、音楽、美術などを紹介する本シリーズ。フェスティバル/トーキョーでは、2014 年の「韓国」特集を皮切りに、「ミャンマー」(F/T15)、「マレーシア」(F/T16)、「中国」(F/T17)と、毎年綿密なリサーチを実施し、歴史、文化、社会背景を踏まえた気鋭のアーティストの作品をキュレーション、あわせて多様な言語、文化、身体のあり方を前提とした継続性のある交流の基盤づくりを進めてきた。

5回目の開催となる今回のテーマ「トランス・フィールド」は、これまでの「アジア地域から毎年1カ国を特集する」という枠組みを脱するものでもある。地図に描かれた国の形と、そこで醸成された文化は、必ずしも同じ輪郭を描かない。こうした整合性の不在の背景にある歴史と文化の多様性を踏まえ、新たな視点から世界を見渡すことこそが、これからの「アジアシリーズ」に求められる役割ではないだろうか。

もちろん、越境や融解は、地理的な境界に限った事象ではない。アジア地域の多様で複雑な社会、文化を反映した表現においてもまた、芸術分野の境界を超えたさまざまな試みがなされている。本企画では、こうした芸術分野の融合や表現形式の変化にも着目、アジアの文化とその未来について、観客、参加者と共に思考をめぐらす場を創造していく。

アジアシリーズ vol.5 トランス・フィールド

『MI(X)G』

コンセプト・演出：ピチェ・クランチェン

10/13 (Sat) – 10/14 (Sun)

南池袋公園

ダンス

入場無料・予約不要

上演時間：120 分（予定）

全 2 回公演 ※雨天決行、荒天中止

10/13 (Sat) 15:00

10/14 (Sun) 15:00 ★

★=終演後、ポスト・パフォーマンストークあり



キッチンなデザインの「サル」たちが躍動した『Toky Toki Saru』(F/T17 オープニング作品)でも好評を博したタイのダンサー、振付家のピチェ・クランチェンが、今年も南池袋公園を会場にした新作で、フェスティバル/トーキョーのオープニングを飾る。

今作のテーマは「変化し続けるアジア」。アジアの各地域から集ったダンサー、振付家6名と、オーディションによって選ばれた日本在住のダンサー24名とで、30個におよぶバルーン型オブジェを使い、アジア域内で加速度を増す「移動」や「移住」が生み出す他者との出会い、その葛藤や希望を描き出す。ユニークでカラフルなオブジェに彩られた屋外広場での上演は、DJの生み出すグループとも相まって、観客をも取り込む、唯一無二の祝祭空間を立ち上げる。

MI(X)G — M: migration/migrate (移動/移住)、I: immigrants/immigration (移民)、X: something (未知のもの)、G: grant (承認) の頭文字



ピチェ・クランチェン Pichet Klunchun (タイ)

ダンサー・振付家

タイ古典仮面舞踊劇コーンの第一人者チャイヨット・クンマナーのもとで16歳より訓練を開始。バンコクのチュラロンコン大学で美術・応用美術の学士号を取得後、ダンサー、振付家として舞台芸術を探究。世界各地でさまざまな舞台芸術プロジェクトに参加。フランス政府から芸術文化勲章シュバリエ章(2012)、アジア・カルチュラル・カウンシルからジョン・D・ロックフェラー三世賞(2014)などを受賞。F/T17 オープニング『Toky Toki Saru (トキトキサル)』に引き続き、2回目のF/T参加となる。

共催：国際交流基金アジアセンター

ASIAcenter
JAPAN FOUNDATION

見どころ

① F/T18のオープニング作品。タイのダンサー、振付家のピチェ・クランチェンが、移動、移住に着目し、国際色豊かなキャスト・スタッフと共に「変化し続けるアジア」を描き出す

② 30個にもおよぶポップでカラフルなオブジェを使い、未知の存在との出会いにまつわる不安、希望をダイナミックに表現する

③ 芝生が広がる公園で、DJが生み出すグループのなか、ダンサーも観客も一体となった祝祭空間が誕生する

アジアシリーズ vol.5 トランス・フィールド

ショブノ・ドル 『30 世紀』

脚色・演出：ジャヒド・リボン 原作：バドル・シヨルカル

11/3 (Sat) - 11/4 (Sun)

東京芸術劇場 シアターウエスト



演出家・俳優のジャヒド・リボンが代表を務め、バングラデシュの首都ダッカを拠点に活動する劇団ショブノ・ドル。原爆の犠牲者を追悼するため、2002 年以降、毎年広島市の平和記念日にあわせて首都ダッカにて上演され続けてきた彼らの代表作『30 世紀』が日本初公演を迎える。

『30 世紀』は、インド人劇作家バドル・シヨルカルが、パキスタン時代^(注)のバングラデシュでは使用を制限されていたベンガル語で執筆した戯曲。核開発や原爆投下の関係者への問いかけや、被爆者の証言を軸に、広島・長崎の悲劇と、30 世紀に向けた平和への願いを伝える作品だ。

リボンは、この戯曲に、現在進行中の紛争やバングラデシュの現代史をも盛り込み、脚色。語りと歌を交えたベンガルの伝統的な演劇形式を使いながらも、現代に響く、力強いメッセージを発信する。現地の織物と情報を象徴する新聞紙、俳優の身体を効果的に用いた舞台は、シンプルながらも、鮮やかでエネルギッシュだ。

なお、本作の上演は、1952 年に起こったベンガル言語運動の犠牲者を追悼するモニュメント「ショヒド・ミナール」のレプリカが設置された池袋西口公園に隣接する東京芸術劇場(シアターウエスト)で行われる。

(注) バングラデシュは、1971 年にパキスタンより独立。

演劇

一般前売 3,500 円

当日 4,000 円

学生 2,300 円

高校生以下 1,000 円ほかセット券あり

指定席

上演時間：90 分（予定）

ベンガル語、日本語字幕あり

全 2 回公演

11/3 (Sat) 18:00

11/4 (Sun) 14:00 ★

★＝終演後、ポスト・パフォーマンストークあり

見どころ

① 原子爆弾の犠牲者を追悼するため、2002 年以後 16 年間にわたり、広島市の平和記念日にあわせて、上演され続けてきたバングラデシュの劇団ショブノ・ドルの代表作が日本初公演

② 原爆投下の悲劇を描いた、インド現代演劇の開拓者バドル・シヨルカルが戯曲『30 世紀』を、現代の世界情勢、上演地の歴史に合わせて脚色し、上演

③ 語り軸となる、伝統的な演劇形式を踏襲。鮮やかな織物と新聞紙、俳優の身体を効果的にもちいたエネルギッシュな舞台

ショブノ・ドル Swapnadal (バングラデシュ)

2001 年、代表のジャヒド・リボンによりダッカで創立された劇団。語りと歌を交えたベンガル地方の伝統的な演劇手法を用いながら現代的なテーマを扱い、これまでにタゴールの『チットランゴダ』や『郵便局』など 17 作品を発表している。代表作の『30 世紀』は国内外の様々な演劇祭に参加、インドで開催されたアジア最大級の演劇祭である「第 17 回インド国際演劇祭 (17th Bharat Rang Mahotsav)」(2015) でも上演されている。



Photo: Swapnadal

ジャヒド・リボン Zahid Repon

1969 年生まれ。劇団ショブノ・ドルの代表。ジャハングルナガル大学演劇学部(演出専攻)にて学士号と修士号を取得。現在に至るまで、演出家、俳優、指導者、研究者として 32 年間演劇に関わり続ける。現在、ナショナル・インスティテュート・オブ・マス・コミュニケーションのディレクター、バングラデシュ・マイム・フェデレーションの委員長を兼任。

共催：国際交流基金アジアセンター

後援：駐日バングラデシュ大使館

ASIAcenter
JAPAN FOUNDATION



アジアシリーズ vol.5 トランス・フィールド

『ボンブン・イン・トーキョー』

キュレーション：ローモールピッチ・リシー

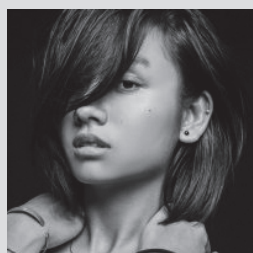
11/10 (Sat) - 11/11 (Sun)

北千住 BUoY



カンボジア・プノンペン郊外で、3日間14万人を動員するなど、若い世代からの圧倒的支持を集めるフェスティバル「BonPhum (Village Festival)」。

そのプロデューサー、ローモールピッチ・リシーのディレクションで、カンボジア・カルチャーのエネルギッシュな「いま」を東京に届ける。



ローモールピッチ・リシー Lomorpich Rithy (カンボジア)

アーティスト、「ボンブン」ディレクター

王立プノンペン大学メディア・コミュニケーション学部卒業。BBC メディア・アクション・カンボジアでのディレクターを経て、2014年にPlerngKobを創設。失われてしまったカンボジアの伝統を現代に接続させることを目的としたボンブン(ビレッジ・フェスティバル)を主催している。5回目の開催となった今年は、3日間で約140,000人が来場した。別名、Yoki Cöcöとしても活動。

facebook: BonPhum

音楽・レクチャー・映像・伝統舞踊

一般前売 3,000 円

当日 3,500 円

学生 2,000 円

上演時間：120 分（予定）

スタンディング（整理番号つき）

英語・クメール語／日本語逐次通訳つき

全 2 回公演

11/10 (Sat) 19:00

11/11 (Sun) 18:00

見どころ

① 3日間14万人を動員するカンボジア随一のフェスティバルをプロデュースする若手アーティストによるキュレーション

② 平均年齢24歳の国で、エネルギッシュに活動する若手アーティストが、音楽、映像などのジャンルを超えて集結

③ ボル・ポト政権時代を経て断絶された伝統芸能と、現代のカンボジアのカルチャーを同時に体験できる

共催：国際交流基金アジアセンター

ASIAcenter
JAPAN FOUNDATION

アジアシリーズ vol.5 トランス・フィールド

『フィールド：プノンペン』

11/10 (Sat) - 11/11 (Sun) 北千住 BUoY



共催：国際交流基金アジアセンター

展示・トーク・WS・映像

北千住のアートスペースに、プノンペンの街とアートシーンを体験できる空間が登場。東京とは異なるアートのあり方を見せる。カンボジアの首都プノンペンは、多ジャンル、多国籍のアーティストが活動する懐深い文化都市。大らかな気質から生まれる自由な創作姿勢は、数多くの移住者を惹きつけ、多様性のある独自のアート・コミュニティを形成している。本企画では、プノンペン在住の複数のアーティストによる作品展示のほか、ワークショップ、映像、日本のアーティストとのトークなども開催。プノンペンのアート事情と、その成立の背景についても紹介する。

入場料：500 円 途中入退場自由

英語・クメール語／日本語逐次通訳つき

11/10 (Sat) 14:00 ~ 21:30

11/11 (Sun) 14:00 ~ 20:30

見どころ

① 東京の下町・北千住にあるアートスペース BUoY に、プノンペンの街とアートシーンを体感できる空間が登場

② さまざまなジャンルのアート作品の展示ブースやイベントを自由に回覧できる

③ ワークショップや日本のアーティストを交えたトークを通じ、作品の背景にある環境、コミュニティについてもシェアする

アジアシリーズ vol.5 トランス・フィールド

「境界を越えて～アジアシリーズのこれまでとこれから～」

11/8 (Thu) - 11/11 (Sun)

東京芸術劇場 シアターイースト

映像・トーク

一日 1,500 円 (予約優先・前売当日共) ほか

オープン時間

13:00 - 21:00

※最終日のみ 18:00 まで

見どころ

① これまでのアジアシリーズ (韓国、ミャンマー、マレーシア、中国) の記録映像を一挙上映! 混ざり合うアジアが見えてくる

② アジアシリーズのターニング・ポイントとなる今年のテーマは、「トランス・フィールド」。地域も分野もより横断的な枠組みへとシフトチェンジをはかる

③ たんなる記録ではなく、上演とは別の作品ともなりうる「記録映像」の可能性を探る



Photo: Tsukasa Aoki, Hibiki Miyazawa (Alloposidae), Yohta Kataoka

F/T14 以来、さまざまな言語や文化が混在するアジア地域から毎年一カ国をピックアップし、紹介してきた「アジアシリーズ」。これまで韓国、ミャンマー、マレーシア、中国の特集を組んできたが、4 年分のクリエイション、招聘プログラムから見てきたのは、国籍混交のチームによる、ジャンルの垣根も悠々と越えていく作品と活動の実態だった。

5 年目となる今年のアジアシリーズは「トランス・フィールド」と題し、より横断的な枠組みに転換する。この判断に至った経緯の振り返りも兼ね、F/T の蓄積してきたアーカイブを活用し、過去 4 年分の記録映像を大画面で一挙上映。アジアにおける舞台芸術シーンの現状と将来像に思考を巡らせる。

<これまでのアジアシリーズ>

- ・ 2014 年 F/T14 vol.1 韓国特集 「多元芸術」
- ・ 2015 年 F/T15 vol.2 ミャンマー特集 「ラウンドアバウト・イン・ヤンゴン」
- ・ 2016 年 F/T16 vol.3 マレーシア特集
- ・ 2017 年 F/T17 vol.4 中国特集 「チャイナ・ニューパワー 中国ミレニアル世代」

共催：国際交流基金アジアセンター

ASIAcenter
JAPAN FOUNDATION

まちなかパフォーマンスシリーズ

まちなかのさまざまな場所で、演劇、美術、パフォーマンスなどの演目を実施するシリーズの3回目。場所が持つ固有の歴史やそこから生まれた物語、さらには現在の東京に流れる空気を舞台に取り入れながら、まちなかでしか成立しない作品を作り出す試みである。観客が劇場へ赴くのではなく、演劇がまちの中へ入っていく仕組みを、既存の演劇の枠を超える複数のアーティストと創造する。

まちなかパフォーマンスシリーズ

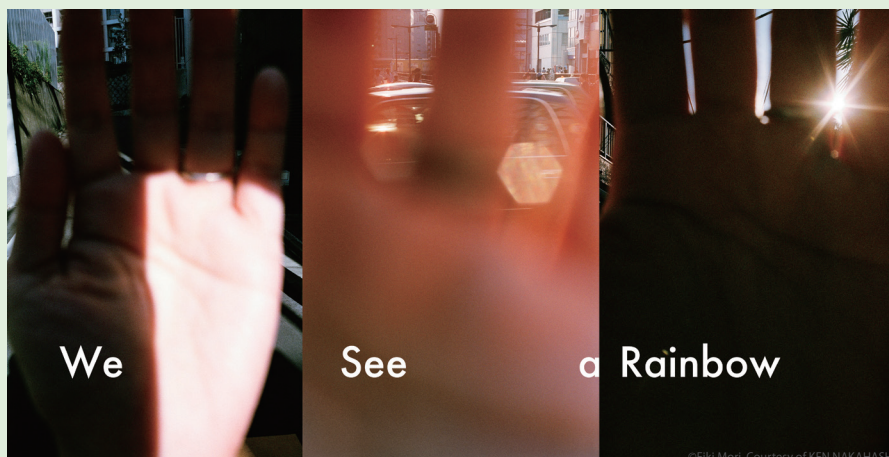
ア・ポエット：ウィー・シー・ア・レインボー

『A Poet: We See a Rainbow』

作・演出・出演：森 栄喜

10/20 (Sat) - 10/22 (Mon)

ジュンク堂書店 池袋本店 9 階ギャラリースペース、南池袋公園 サクラテラス、
東京芸術劇場 劇場前広場、東京芸術劇場 ロワー広場



日本の同性婚実現をパフォーマンスを通して訴えた『Wedding Politics』、パートナーの男性、子供との架空の家族の姿を道行く人に撮影してもらう F/T17 の『Family Regained: The Picnic』と、一貫して、自身が体感する社会問題を公共空間に投げかけてきた森栄喜。2 度目の F/T 参加となる今回は、これまでに手がけてきた写真ではなく、「詩」の朗読を通じて、LGBT をはじめとする多様性のあり方を探っていく。

森が詩を書き始めたのは 20 代。その後写真中心の生活を送ってきたが、近年になって詩作を再開した。その出発点はニューヨーク留学中に会った LGBT 当事者たちの朗読会。私的なことから政治をテーマにしたものまで、臆せずに表現する様子に触発された記憶は、まちなかで個人的な感情や出来事を交えた詩を朗読する、今作のコンセプトにも受け継がれている。公園や路地の一画で、誰かが目撃し、耳を傾けることでしか成立しないパフォーマンス。森が投げかける真情、問いは、どんな出会いを生み出すのだろう。

パフォーマンス

入場無料

上演時間：30 分（予定）

日本語上演

10/20 (Sat) 17:00 / 20:00 @ ジュンク堂書店

10/21 (Sun) 15:00 @ 南池袋公園

10/22 (Mon) 15:30 / 18:00 @ 東京芸術劇場

見どころ

① 写真家として活躍し、自らもパフォーマンスを行ってきた森栄喜による新作が F/T に再登場

② 写真でも映像でもない、森にとっては新しい表現形態となる「詩」

③ 豊島区内のいくつかの公共空間を会場に、個人的な想いを社会に解き放つ



森 栄喜 Eiki Mori

写真家

1976 年石川県生まれ。2014 年『intimacy』で、第 39 回木村伊兵衛写真賞を受賞。『tokyo boy alone』(2011)、『Family Regained』(2017) などの作品集のほか、同性婚をテーマにしたパフォーマンス『Wedding Politics』(2013-2016) がある。F/T17 では新しい家族の形を提示した映像作品『Family Regained: The Picnic』を池袋西口公園、豊島区庁舎で上映した。

<http://www.eikimori.com/>

まちなかパフォーマンスシリーズ

『ラジオ太平洋』

作・演出・出演：福田 毅

10/27 (Sat) - 10/28 (Sun)、11/10 (Sat) - 11/11 (Sun)

東京さくらトラム（都電荒川線）車内

受付場所：東京さくらトラム（都電荒川線）早稲田停留場

演劇

一般前売 2,500 円

当日 3,000 円

学生 1,600 円

自由席（先着順）おみやげ付

上演時間：60 分（予定）

日本語上演

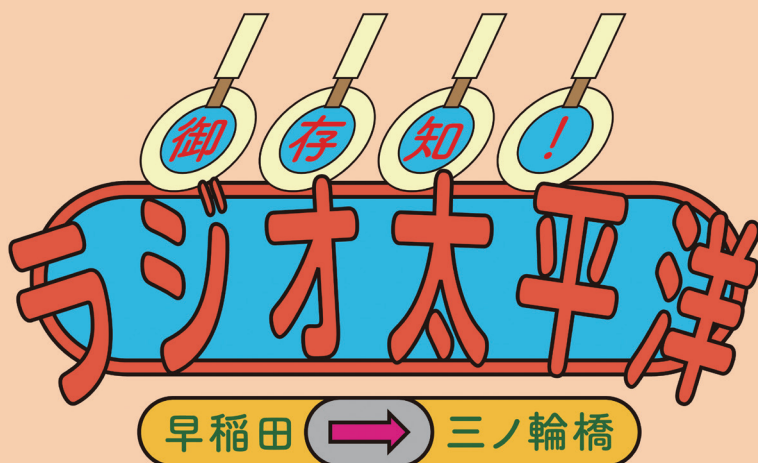
全 4 回公演

10/27 (Sat) 14:00

10/28 (Sun) 14:00

11/10 (Sat) 14:00

11/11 (Sun) 14:00



公園のカフェでの通信販売演劇『ふくちゃんねる』（F/T16）、劇場ロビーでのビンゴ形式を取り入れた演劇作品『アドベンチャー BINGO!!』（F/T17）など、劇場に収まらないユニークな企画で観客を巻き込む俳優・福田毅の新作が、今年もフェスティバル/トーキョーに登場する。今回の会場は、貸し切りにした東京さくらトラム（都電荒川線）の車内。ラジオのパーソナリティに扮した福田が、公開生放送形式の演劇作品を創作する。乗客とコミュニケーションしつつ、トーク、音楽、天気予報、ニュース、交通情報、お便りコーナーなどウィットに富むプログラムを展開する。1 回の公演に参加できる人数は、約 16 名（予定）。早稲田から三ノ輪橋までの約 60 分、新宿・豊島・北・荒川の 4 つの区をまたぎ、移り変わっていく車窓からの眺めと街の音、福田のナビゲートが加わり、他にはないスペシャルな時間を提供する。なお、全 4 公演の様態を収録した「ラジオ番組」は、後日、誰でもアクセスできるかたちで配信される。

見どころ

① 中野成樹＋フランケンの俳優・福田毅が 3 年連続でフェスティバル/トーキョーに参加。「通信販売」、「ビンゴ大会」の次に選んだテーマは「公開生放送ラジオ番組」

② 東京さくらトラム（都電荒川線）を貸し切り、4 つの区をまたぐ中で紡がれる移動型サイトスペシフィック作品

③ ラジオパーソナリティに扮した福田がナビゲートする限定 4 回の生放送形式の演劇作品



© Takaki Sudo

福田 毅 Takeshi Fukuda

俳優

中野成樹＋フランケンス所属。劇団公演のほか『From the Sea』（F/T14）など、客演も多数。2009 年よりソロ・パフォーマンスを開始。近年に、Twitter に書きとめ寓話を構成した『鷹』、同作の改訂版『かも』（共に 2015）。まちなかパフォーマンスシリーズ（F/T16、17）では、カフェや劇場のロビーを会場に上演を実施。2018 年 3 月にはショーケース公演『Step into my home』（急な坂スタジオ・ジャパンファウンデーションシドニー）にて海外初進出。

特別協力：東京都交通局



都営交通
TOEI TRANSPORTATION

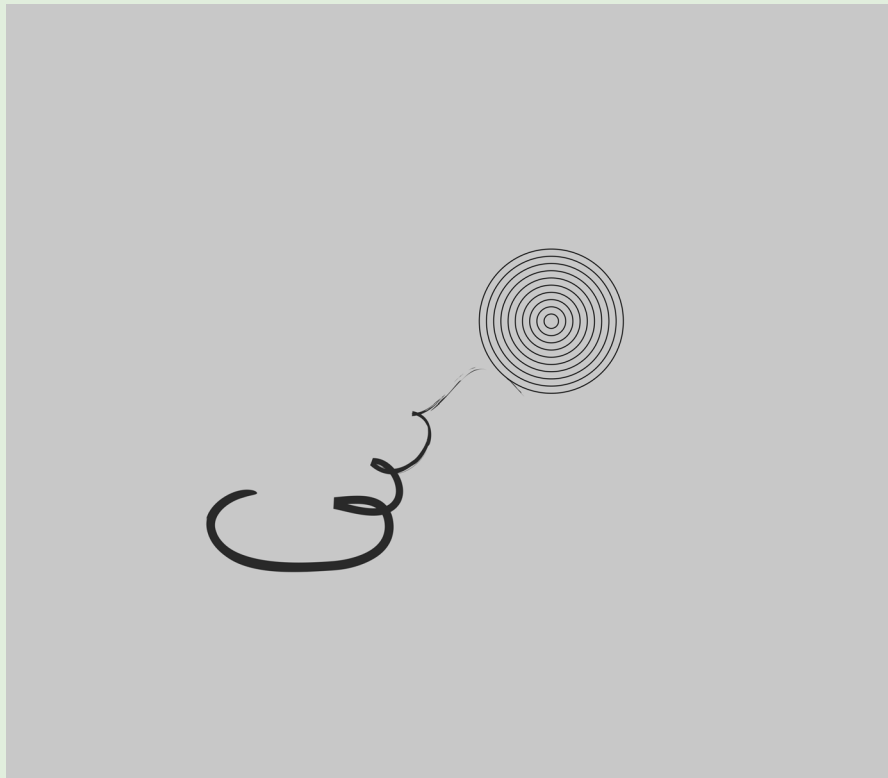
まちなかパフォーマンスシリーズ

L PACK.『定吉と金兵衛』

作・演出・出演：L PACK. 原案：落語『茶の湯』より

10/31 (Wed) - 11/3 (Sat)

豊島区立目白庭園 赤鳥庵



アート、デザイン、民藝などの思考、技術を使い、日本各地の芸術祭や美術展で、カフェ、喫茶店とは異なる「コーヒーのある風景」を提供してきた、小田桐奨と中嶋哲矢によるL PACK. が、初めてのパフォーマンス作品を発表する。本作は、知ったかぶりをする隠居と小僧の定吉が、勘違いにあふれた珍妙な茶会を開く落語『茶の湯』に触発された、同タイトルのプロジェクト(2017-)の第2章にもあたる。今回は、豊島区内の茶道家や落語会を対象にしたリサーチ、ワークショップなどを通じて得られた豊かな「違い」の数々を、実際の「茶会」に盛り込み、会場内の展示とも併せて観客をもてなす。会場となるのは、豊島区立目白庭園にある数寄屋建築、赤鳥庵。自然に囲まれた静かな時間に、まちなかで発見された「違い」は、どんな風合いを加えるのか。その演出にも期待が高まる。

茶会、展示

〔茶会〕 一般前売 1,500 円
当日 2,000 円
学生 1,000 円
上演時間：約 60 分（予定）
自由席（先着順）
日本語上演

〔展示〕 無料

全 7 回公演

茶会

10/31 (Wed) 15:00 / 19:00
11/1 (Thu) 休演日
11/2 (Fri) 15:00 / 19:00
11/3 (Sat) 11:00 / 15:00 / 19:00

展示

10/31 (Wed) 14:30 - 19:00
11/1 (Thu) 休演日
11/2 (Fri) 14:30 - 19:00
11/3 (Sat) 10:30 - 19:00

見どころ

① 日本各地でコーヒーを媒介にして人々が集う場を作ってきたL PACK. が「茶会の亭主」に扮した初のパフォーマンス

② 落語の『茶の湯』を出発点に、豊島区内で行うさまざまなリサーチ、ワークショップを通じて発見した「違い」を、「茶会」を通して表現する

③ 豊島区立目白庭園内にある数寄屋建築、赤鳥庵を会場にした、サイトスペシフィックな作品



© Koji Fukunaga

L PACK. (エルバック)

小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。共に 1984 年生まれ、静岡文化芸術大学空間造形学科卒。アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指す。各地のプロジェクトやレジデンスプログラム、エキシビションに参加。
www.lpack.jp

まちなかパフォーマンスシリーズ

『テラ』（仮）

坂田ゆかり（演出）×稲継美保（出演）×田中教順（音楽）

原案：三好十郎『水仙と木魚』ほか

11/14 (Wed) - 11/17 (Sat)

西巣鴨 西方寺

演劇

一般前売 2,500 円

当日 3,000 円

学生 1,600 円

自由席（整理番号つき）

上演時間：70 分（予定）

日本語上演

全 6 回公演

11/14 (Wed) 19:00

11/15 (Thu) 19:00

11/16 (Fri) 12:00 / 19:00

11/17 (Sat) 12:00 / 18:00



共に 1980 年代生まれで東京芸術大学音楽環境創造科出身の、坂田ゆかり（演出）、稲継美保（出演）、田中教順（音楽）によるコラボレーション企画。演出の坂田が、ロサンゼルス、アテネなどでの滞在制作を通じて深めた現代の諸問題への関心を、岡崎藝術座、サンプル、チェルフィッチュなどに出演する俳優で自身のプロジェクトも手がける稲継と、演奏活動はもちろん演奏者の視点からの音色研究も行う田中とシェアし、言葉と音楽による空間の創造へとつなげていく。

童話や神話に加え、上演地の歴史、近隣に暮らす人々の記憶や死生観をも織り込んで構成される台本のベースとなるのは、寺を舞台に隣近所のいさかや世間話を描く三好十郎の『水仙と木魚』だ。1950 年代、東西冷戦を背景に書かれた言葉は、地域コミュニティとの出会い、三人のアーティストの試行錯誤を経て、どのように現代に響くだろう。

見どころ

① 1980 年代生まれの演出家、俳優、音楽家の三人がつくりあげる、言葉と音楽の空間

② 地域で育まれた歴史、そこで暮らす人々の記憶、死生観なども取り込む

③ 冷戦時代に書かれた三好十郎の戯曲『水仙と木魚』をベースに、童話や神話、リサーチを通じて得られた地域の物語をも取り込みつつ、現代の諸問題を見つめる

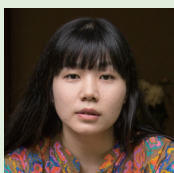


©George Stamatakis

坂田ゆかり Yukari Sakata

演出家

1987 年東京都生まれ。東京藝術大学音楽環境創造科卒業後、全国の劇場で舞台技術スタッフとして研鑽を積む。2014 年、アルカサバシアター（パレスチナ）との共同創作『羅生門 藪の中』を演出（F/T14）。近年は展覧会という形式に演劇の技術や考え方を応用させる実験を重ねている。建築家ホルヘ・マルティンとの長期プロジェクト『Dear Gullivers』は、第 16 回ヴェネチア建築ビエンナーレ（2018）のスペイン館に参加。「既存の物語」と「協働」を手段として、地域社会への芸術的介入を試みる。

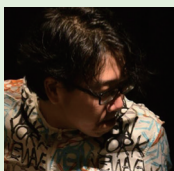


© Akinali Nishimula

稲継美保 Miho Inatsugu

俳優

1987 年兵庫県生まれ。東京藝術大学在学中より演劇を始める。舞台を中心にフリーランスで活動中。これまでに、坂田ゆかり、岡崎藝術座、サンプル、チェルフィッチュ、ミクニヤナイハラブプロジェクト、パストリオ、オフィスマウンテンなどの作品に出演している。現在、東京藝術大学音楽環境創造科にて、学生に演技を教え、ともに演劇作品を創作している。



© Kouki Ueta

田中教順 Kyojun Tanaka

ミュージシャン

1983 年東京都生まれ。「抱きたいリズム」をモットーに世界を旅するリズムアディクテッドな大学職員。菊地成孔の dCprG 等で活動後、現在ミャンマーやスリランカ等の東南アジアのリズム研究を行う。アメリカン・スピリット CM 音楽やドラマ『卒業バカメンタリー』オリジナル・サウンドトラック等でドラム及びパーカッション演奏、リズムアレンジを担当。その他には自身のユニット「未同定」やラテン・ジャズバンド Septeto Bunga Tropis などで演奏している。

マレビトの会『福島を上演する』

作・演出：マレビトの会

10/25 (Thu) - 10/28 (Sun)

東京芸術劇場 シアターイースト



©Keiko Sasaoka

F/T での上演も3年目を迎えるマレビトの会の長期プロジェクト『福島を上演する』(2016年～)。複数の劇作家が福島に赴き、それぞれの視点で切り取った福島の現在を、ごくシンプルな空間で俳優の身体を通して出現させる同シリーズでは、過去2年で51作の戯曲が上演されてきた。その多くは、一見なんでもないような日常の断章。さらに一つの戯曲につき1回の上演というスタイルも、「上演されゆく福島」という特異性のある時間と空間を創出しつつ、年月と共に進む歴史化、物語化に抵抗するものとして、注目を集めている。

今回は、4日間4回にわたって、8人の劇作家による戯曲群を上演。同作のもう一つの特色でもある大道具小道具を使用しない無対象演技が、東京芸術劇場(シアターイースト)という新たな空間を得て、どのように進化、変容するのか。一度しかない舞台上の「出来事」を前に、観客はどのような思いをめぐらすのだろうか。

演劇

一般前売 4,000 円

当日 4,500 円

学生 2,600 円ほかセット券あり

自由席(整理番号つき)

上演時間：未定

日本語上演

全4回公演

10/25 (Thu) 19:30

10/26 (Fri) 19:30

10/27 (Sat) 18:00 ★

10/28 (Sun) 14:00

★＝終演後、ポスト・パフォーマンストークあり。

※各回上演内容が異なります。アイダミツル、神谷圭介、草野なつか、島崇、高橋知由、松田正隆、三宅一平、山田咲による複数の戯曲を上演します。

見どころ

① 8名の作家が福島に取材し執筆した戯曲群を、各1回限定で4日間にわたって上演する

② 大道具小道具のないシンプルな空間で、言葉と俳優の佇まいだけを頼りに、福島のいまを浮き彫りにする

③ 現在の福島を切り取り現前化する断章の上演を通し、月日と共に進行する歴史化、物語化への抵抗を試みる

マレビトの会

2003年、舞台芸術の可能性を模索する集団として設立。被爆都市である広島・長崎をテーマとした「ヒロシマナーガサキシリーズ」(2009-2010)、震災と原発事故以後のメディアと社会の関係性に焦点を当てた『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』(2012)、複数の戯曲から都市を多面的に描く『長崎を上演する』(2013-2016)、『福島を上演する』(2016-)などを上演。演劇における上演形式を大きく変化させながらも、未曾有の出来事を経験した都市をテーマに、歴史に回収されぬものを探り、描き続けている。
マレビトの会 公式 HP: <http://www.marebito.org/>



松田正隆 Masataka Matsuda

マレビトの会代表

1962年長崎県生まれ。2003年より演劇の可能性を模索する集団「マレビトの会」を結成。主な作品に『cryptograph』(2007)、『声紋都市一父への手紙』(2009)、写真家笹岡啓子との共同作品『PARK CITY』(2009)、『HIROSHIMA-HAPCHEON:二つの都市をめぐる展覧会』(2010)、『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』(2012)、『長崎を上演する』(2013-2016)などがある。立教大学現代心理学部映像身体学科教授。

ナシーム・スレイマンプール×ブッシュシアター 『NASSIM』

作・出演：ナシーム・スレイマンプール

11/9 (Fri) - 11/11 (Sun)

あうるすぽっと



Photo: David Monteith-Hodge

イラン出身で、ドイツ・ベルリン在住の劇作家、ナシーム・スレイマンプール。『白いウサギ、赤いウサギ』(2011年)など、世界各地で翻訳上演される作品を手がけてきた彼が、「母語のペルシア語で伝える」ことを主眼に作りあげた作品を日本初演する。

この作品に参加する俳優に求められるのは、作品の概要や台本の中身、自分の役割について、一切知らないまま本番を迎えること(したがって本公演は毎ステージ、異なる俳優によって演じられる)。一度舞台に立てば、たった一人で、作家本人がスライド越しに出す指示に従い、話し、行動しなければならない。

時には観客をも交えた二人のコミュニケーションは、ごくリラックスしたムードをつくり出しつつ、言葉の力、言葉とアイデンティティの結びつきについての深い問いをも浮かび上がらせる。

演劇

一般前売 3,500 円

当日 4,000 円

学生 2,300 円

指定席

上演時間：70 分(予定)

日本語 / ペルシア語

全 4 回公演

11/ 9 (Fri) 19:30 塙 宣之 (ナイツ)

11/10 (Sat) 14:00 ★ 丸尾丸一郎 (劇団鹿殺し)

11/11 (Sun) 14:00 ドミニク・チェン

18:00 森山未来

★=終演後、ポスト・パフォーマンストークあり

見どころ

① イラン出身で、ベルリン在住の劇作家、ナシーム・スレイマンプールが、「母語(ペルシア語)で伝えること」をテーマに書いた作品

② 毎ステージ異なるキャスト、リハーサルなし。俳優は、その場で、作家から与えられる指示をこなしていく

③ 時に観客をも引き入れる作家と俳優とのコミュニケーションが、言葉の力、言葉とアイデンティティの結びつきについて問いかける



Photo: Nima Soleimanpour

ナシーム・スレイマンプール Nassim Soleimanpour (イラン)

劇作家・パフォーマー

1981 年生まれ。兵役を拒否したために、2012 年までイランからの出国を禁止された経験を持つ。自身はイランにいらながらも、作品に旅をさせるスタイルを生み出した 2011 年の作品『白いウサギ、赤いウサギ』は多くの受賞歴を持ち、これまでに 25 の異なる言語に翻訳され、その上演回数は 1000 を超えている。その他の主な執筆作に『ブラインド・ハムレット』(2013)、『ブランク』(2015)。現在、ベルリン在住。

ドキュメント『Changes』

監督・撮影・編集：山本卓卓

11/13 (Tue) - 11/14 (Wed)

あうるすぽっと

映画

一般 1,500 円（前売当日共）

自由席（整理番号つき）

上演時間：未定

全 3 回公演

11/13 (Tue) 19:30

11/14 (Wed) 13:00 / 17:00



photo: Ryuichiro Suzuki

劇作家・演出家として数々の作品を手がけてきた山本卓卓（範宙遊泳）。これまでもプロジェクターを用いた演出で、観客の目の前にある生身の俳優と映像の関係を模索してきた彼が、「映画」というメディアでの創作に初挑戦。ドキュメンタリーの手法を取り入れつつ、長期間に渡って撮影・創作される本作は、「一人の人間」を見つめる山本のソロプロジェクト「ドキュメント」の新作でもある。俳優・田中美希恵の「演じる／演じさせられる」姿を追い続ける事で、彼女ばかりか、レンズ越しに見つめる山本までもが「変化する／変化させられる」、演劇では捉えきれない時間を記録していく。

見どころ

① 劇作家・演出家である山本卓卓（範宙遊泳）が、ソロプロジェクト「ドキュメント」名義で、初の映画創作に挑む

② 俳優が「変化する／変化させられていく」姿を丁寧に記録することで、社会に内在する自発と強要の曖昧さにも問いを投げかける

③ 演劇／演技では描き出せない現実の時間の変化を映画によって捉えるための長期プロジェクト



Photo: amemiyayukitaka

ドキュメント

2012 年より範宙遊泳主宰の山本卓卓が始めた、1 人の人間に焦点を当て生い立ちから掘り下げて作品化するソロプロジェクト。

山本卓卓 Suguru Yamamoto

劇作家・演出家

幼少期に吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する、現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築する。近年は、マレーシア、タイ、インド、中国、アメリカ、シンガポールで公演や国際共同制作なども行ない、活動の場を海外にも広げている。『幼女 X』で Bangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。『その夜と友達』で第 62 回岸田國士戯曲賞最終候補作ノミネート。

「参加する・学ぶ」 — F/T では、観劇するだけでないフェスティバルと市民との接点として、多彩な「参加する」「学ぶ」プログラムを展開している。

シンポジウム

「フェスティバル・アップデート」

会場：あうるすぽっと ほか

日程：10/16 (Tue)、11/18 (Sun)

参加費：500 円

舞台芸術に限らず、この 10 年でアートフェスティバルが日本各地にひしめくように生まれ、F/T を取り巻く環境も大きく変化した。また、世界各国からの東京への旅行者、移住者も増え、都市・東京を形成する人の層も時事刻々と変化している。「フェスティバル＝祭り」が本来、日常との対比で現れる特別な時間なのだとしたら、この巨大都市でいま、フェスティバルはどのような「日常」を下地に、どのような「特別な時間」として現れうるのか。これからのフェスティバル／祭りのあり方を、舞台芸術のフレームに捉われず検証する。

ディレクターズ・ラウンジ

ディレクター／ディレクションのこれから

会場：東京芸術劇場 アトリエーエスト

日程：10/23 (Tue) - 11/11 (Sun) ※期間中、複数開催

参加費：500 円

*各回定員 30 名 (予約優先・先着順)

さまざまな業種で使われている「ディレクター」「ディレクション」という言葉。舞台芸術においても、「演出家」という役割が近代以降に誕生し、いまや創造の中心をつかさどる存在となった。その一方、トップダウンではない集団創作スタイルの模索とともに、「演出(家)」の役割も多様化してきているのではないか。このトークプログラムでは、従来のいわゆる「演出家」とは異なる働きをしていると思われるアーティストをゲストに迎え、F/T の 2 人のディレクターとともに、これからの「ディレクター」「ディレクション」について語り合う。

背景？ 前景？

会場：東京芸術劇場 アトリエーエスト

日程：10/23 (Tue) - 11/11 (Sun) ※期間中、複数開催

参加費：500 円

*各回定員 30 名 (予約優先・先着順)

作品には、それが生まれてくる背景がある。その「背景」は、アーティストの個人的なものであると同時に、社会的、時代的、文化的、政治的、等々、さまざまな広がりを持つ。この当たり前の事実を前にしたとき、いわゆる「作品」だけを切り取って流通させ、消費することにどんな意味があるのだろうか (ないとは言わないが)。むしろ切り落とされがちな「背景」に注目し、それを前景化することで見えてくる、豊かな広がりもあるのではないか。このセッションでは、背景にまなざしを向けることで、作品や創作にまつわる別のパースペクティブを探る。

F/T サポーター

フェスティバルの運営をお手伝いいただく登録制のボランティア・プログラム。SNS を利用して F/T の魅力を発信したり、会場でお客さまをお迎えしたり、小道具や大道具と一緒に作成したり、フェスティバルの一員として、F/T を盛り上げるさまざまなプログラムが用意されている。サポーターには、興味をもった段階でいつでも登録することができる。現在 10 代から 60 代までの幅広い年齢層で、300 名以上の登録がある。



ディスカバリー・プログラム

「出会う」「発見する」「学ぶ」をキーワードに展開する、体験参加型のプログラム。シンポジウムやレクチャー、ワークショップ、学生向け観劇プログラム「ダイアログ・ネクスト」など、F/T ならではの学びの場を創出していく。

●ミーツ F/T

多様な切り口から舞台芸術を知ることコンセプトに、F/T 会期前からフェスティバルの新しい楽しみ方に出会えるプログラムを企画。これまであまり舞台芸術の分野にふれてこなかった人たちが、気軽に作品との接点を持てる場づくりを目指す。また、稽古場見学会を実施予定。演劇を「観る」だけでなく、作品が創作されていく過程を見て、そこから得た感想をアーティストと共有し「プロセスの言葉」に触れる体験を提供する。



●F/T ステーション

10/23 (Tue) - 11/11 (Sun) 東京芸術劇場 アトリエイースト

会期中の約 3 週間、フェスティバルを知る入り口として「F/T ステーション」が登場。本年は東京芸術劇場のアトリエイーストを使用し、来場者にとって緩やかな出会いと交流の場となるような、開放的な空間を演出。会場では F/T の最新情報をお届けするほか、フェスティバルをより深く知れる場所として、上映会やトークイベントを実施。上映会では、F/T の過去作品を上映するほか、参加アーティストや演目に関連する作品を上映し、フェスティバルへの理解を深める機会を提供していく。



●展示

これまでの F/T や今年の上演演目まつわる展示をおこなう。

豊島区立中央図書館 9/29 (Sat) - 11/29 (Thu) ※休館日を除く

豊島区庁舎まるごとミュージアム 9/28 (Fri) - 11/22 (Thu) ※閉庁時を除く

連携プログラム

フェスティバル/トーキョー 18 と同時期の 2018 年 9 月から 11 月にわたって、都内および東京近郊で開催される公演の中でも、とりわけ高い現代性と豊かなオリジナリティを持つ国内外の演劇やダンスの 15 演目を、F/T18 連携プログラムとして紹介する。

『DANCE NEW AIR 2018 ダンスの明日』

10/3 (Wed) - 10/14 (Sun)

主催：Dance New Air 実行委員会、一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ、株式会社ワコールアートセンター

お問合せ：Dance New Air 080-3340-5670 <http://dancenewair.tokyo>

『ラストパイ』

振付：黒田育世

出演：菅原小春、小出顕太郎、加賀谷香、熊谷拓明、樋浦瞳、北村成美、奥山ばらば、関なみこ、BATIK

10/3 (Wed) - 10/5 (Fri) 草月ホール

日本のコンテンポラリーダンス界を牽引する振付家の黒田育世が、Noism05 から振付委嘱された話題作。異なるダンスシーンを駆け抜けてきたダンサーらによるドリームチームが Dance New Air 2018 に集結。伝説の作品が蘇る。

『SPLIT』

振付：Lucy Guerin 出演：Melanie Lane、Lilian Steiner

10/3 (Wed) - 10/4 (Thu) スパイラルホール

人生を例えているかのような時空の中で、二人のダンサーが互に関わりあいながら、自己と他者との間に生まれるジレンマを映し出す。オーストラリアで最も果敢なダンスカンパニーによる刺激的で示唆に富んだ秀作。

『TORDRE (ねじる)』

振付：Rachid Ouramdane 出演：Annie Hanauer、Lora Juodkaite

10/6 (Sat) - 10/7 (Sun) スパイラルホール

ミュージカル映画『Funny Girl』の音楽とともに始まる、遊び心のある冒頭部。催眠的・瞑想的な雰囲気が舞台を包み込み、ダンサーのムーヴメントと、彼女たちの身体の親密な物語が繊細に描かれる。

レクチャーパフォーマンス『ダンスハ體育ナリ?』

其ノ一 体育教師トシテノ大野一雄ヲ通シテ

其ノ二 建国体操ヲ踊ッテミタ

構成：木野彩子 出演：林 洋子 (其ノ一のみ)、木野彩子

10/6 (Sat) - 10/7 (Sun) ゲーテ・インスティテュート 東京ドイツ文化センター

日本では体育の一環として教えられているダンス。健康のために音楽に合わせて清く正しく美しく。元中高保健体育教師で、ダンサー・大学講師の木野が、体育とダンス、そしてスポーツとの違いをレクチャーとパフォーマンスにより明らかにする。

『Chromosome』

構成・出演：小林勇輝

10/8 (Mon) - 10/10 (Wed) VACANT ※展示は 2018/10/7 (Sun) ~ 10/14 (Sun)

ヨーロッパを拠点に活躍するアーティスト小林による、「Life of Athletics」シリーズの最新作。様々なスポーツ競技がはらむ性差別の問題やコントロールされた社会の危うさを、自らの身体やスポーツのフォーマットを用いて浮き彫りにする。

BLUE TOKYO 『DNA スペシャルパフォーマンス』

振付・演出・出演：BLUE TOKYO

10/11 (Thu) - 10/12 (Fri) 草月プラザ

男子新体操とダンスの要素を併せ持つ、唯一無二のエンターテインメント集団。イサム・ノグチが手掛けた石庭「天国」に広がる、草月流・山田幸泉の幻想的な作品空間で、繊細かつダイナミックなパフォーマンスが繰り広げられる。

『Aerobics!- A Ballet in 3 Acts』

コンセプト・振付：Paula Rosolen

10/13 (Sat) - 10/14 (Sun) スパイラルホール

80 年代にフィットネスエクササイズとして世界的旋風を巻き起こしたエアロビクスに内在する構造を研究し、解体、ダンスとして再構築したユニークな作品。ダンサー達は、美的感覚と規則的な運動の視点からダンス、振付、エアロビクスの関係性を探る。

連携プログラム

パルコ・プロデュース 2018

『チルドレン』

作: ルーシー・カークウッド 演出: 栗山民也 翻訳: 小田島恒志

出演: 高畑淳子、鶴見辰吾、若村麻由美

9/12 (Wed) - 9/26 (Wed) 世田谷パブリックシアター

母なる地球からの警鐘…ウエストエンド発、ブロードウェイ経由、今、日本でこそ上演すべき注目の人間ドラマ

大地震、津波、そして原子炉の停止…母なる地球からの警鐘を前に、彼らが下した決断とは…。本年度トニー賞 BEST PLAY ノミネート、今世界が最も注目する女流作家ルーシー・カークウッドの作品が日本初登場。

主催: 株式会社パルコ

後援: TOKYO FM、プリティッシュ・カウンシル

お問合せ: サンライズプロモーション東京

0570-00-3337 (月～土 10:00-18:00)

<http://www.parco-play.com>

福留麻里×村社祐太郎

『埗出』

ダンス: 福留麻里 テキスト: 村社祐太郎 (新聞家)

9/28 (Fri) - 9/30 (Sun) STスポット

「肌はざらざら。もう見覚えがないほど大きくなった」。ダンスとテキストの戯れの最中で語りだす身体。

「間に合わないことが分かんると、火からグラタン皿を外した。毛羽立つスリッパの先っぽ。包丁と同じくらい低い位置に貼られたハザードマップ。ぎぎぎ」。語るたびに〈ここ〉に復帰する身体を通して、〈ここ〉から出て行くことについて思案する試み。

主催: STスポット

お問合せ: STスポット 045-325-0411

<http://stspot.jp>

『LA EDAD DE ORO — 黄金時代』

演出・振付: イスラエル・ガルバン

出演: イスラエル・ガルバン、ダビ・ラゴス (カンテ / 歌)、アルフレド・ラゴス (ギター)

10/27 (Sat) - 10/28 (Sun) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

フラメンコ界のニジンスキー、イスラエル・ガルバンの燃え盛るエネルギーと圧倒的なムーヴメントが挑発する

伝統的なスペイン舞踊をルーツとしながらも、革新的な作品を次々と生み出すフラメンコの革命児イスラエル・ガルバンが代表作『黄金時代』を携え、埼玉に初登場! 眠れぬ雄馬のように力強くしなやか、かつ精緻を極めるムーヴメントで挑むフラメンコの再構築。

主催: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

後援: インスティテウト・セルバンテス東京、
一般社団法人日本フラメンコ協会

お問合せ: SAF チケットセンター

0570-064-939

<http://www.saf.or.jp>

さいたまネクスト・シアター

世界最前線の演劇2『第三世代』 [ドイツ/イスラエル]

作: ヤエル・ロネン&ザ・カンパニー 翻訳: 新野守広 演出: 中津留章仁

11月中旬 彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO

ドイツ・イスラエル・パレスチナをめぐる対立の壁を、「第三世代」の若者たちは越えられるのか
ベルリン・シャウビューネ劇場とイスラエル・ハビマ劇場による共同製作作品として、ドイツとイスラエルでそれぞれの国の俳優が参加し、2008年初演のワークイン・プログレス作品。俳優たちが自身と役の間を往還する大胆な手法で、この問題の根源を探ろうとする「第三世代」の若者たちの姿を描き注目を集めた話題作に、さいたまネクスト・シアターが挑みます。

主催: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

企画協力: 公益社団法人国際演劇協会 日本センター

お問合せ: SAF チケットセンター

0570-064-939

<http://www.saf.or.jp>

連携プログラム

現代能楽集 IX 『竹取』

構成・演出：小野寺修二 脚本：平田俊子 音楽：阿部海太郎

10/5 (Fri) - 10/17 (Wed) シアタートラム

フィジカルシアターの旗手・小野寺修二が「かぐや姫」をあらたなおとぎ話として紐解いていく

世田谷パブリックシアターの人気シリーズ「現代能楽集」の第9弾。マイムをベースにセリフを取り入れた独自の手法で、身体性に富んだ演劇作品を創作している小野寺修二が日本最古の物語文学「竹取物語」の再生に挑みます。出演は小林聡美、貫地谷しほり 他。

主催：公益財団法人せたがや文化財団

お問合せ：世田谷パブリックシアターチケットセンター 03-5432-1515 (10:00-19:00)

<https://setagaya-pt.jp>

日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年

サーカス・シルクール『LIMITS』

構成・演出：ティルダ・ビョルフオス

10/19 (Fri) - 10/21 (Sun) 世田谷パブリックシアター

境界を崩せ！欧州を代表するサーカスカンパニーの難民問題をテーマにした心に響くスペクタクル

スウェーデンを拠点に世界中で活躍する現代サーカスのカンパニー、サーカス・シルクール。幻想的な音楽に、アクロバットやエアリアルなどが次々と繰り出される迫力のステージには、欧州難民危機を目の当たりにした彼らの強いメッセージが込められています。

主催：公益財団法人せたがや文化財団

お問合せ：世田谷パブリックシアターチケットセンター 03-5432-1515 (10:00-19:00)

<https://setagaya-pt.jp>

『The Silver Tassie 銀杯』

作：ショーン・オケイシー 翻訳・訳詞：フジノサツコ 演出：森 新太郎

11/9 (Fri) - 11/25 (Sun) 世田谷パブリックシアター

将来を嘱望されたフットボール選手の人生が戦争により一変する—

犠牲を容認する社会を鋭く描く反戦悲喜劇！

日本演劇界を代表する演出家の一人として、今まさに旬な演劇人である森新太郎により、アイルランドの劇作家ショーン・オケイシーが書いた『The Silver Tassie 銀杯』が今年の秋、本邦初演で上演。歌あり、笑いあり、涙ありの賑やかな “反戦悲喜劇” の幕が開く！

主催：公益財団法人せたがや文化財団

お問合せ：世田谷パブリックシアターチケットセンター 03-5432-1515 (10:00-19:00)

<https://setagaya-pt.jp>

演劇集団円『藍ノ色、沁ミル指ニ』

作・演出：内藤裕子

10/18 (Thu) - 10/28 (Sun) 吉祥寺シアター

藍染めの温度は70℃。ふつふつと発酵するような人間の心模様を描く円の新作。

家業のためにと人生を捧げてきた男とその家族が織りなす絆と葛藤の物語。

ものづくりの伝統と革新の狭間で揺れ動く人間模様を代々続く染織工房を舞台に心に沁み入るハートフルなドラマとして染めあげます。

主催：演劇集団円

提携：公益財団法人武蔵野文化事業団

お問合せ：演劇集団円 0422-29-8135

<http://www.en21.co.jp>

チケット情報

一般前売チケット発売 9/9 (Sun) 10:00 開始

先行割引チケット発売 9/5 (Wed) 10:00 - 9/8 (Sat) 19:00 まで

4日間限定で一般前売価格より約 30% OFF。枚数限定

F/T ならではのお得なチケット（主催プログラムのみ対象） 詳細は F/T 公式 HP へ。

・ペアチケット ・3 演目セット券 / 5 演目セット券 ・学生チケット ・高校生以下チケット

チケット取扱い

F/T チケットセンター 03-5961-5209 オンライン予約 festival-tokyo.jp (24 時間受付)

開設期間 9/5 ~ 11/18 (12:00 ~ 19:00、9/5・9/9 のみ 10:00 より受付) 会期中無休、9/10 ~ 10/12 の期間は土・日・祝定休

東京芸術劇場ボックスオフィス

(対象演目の先行割引・一般前売・学生・高校生以下
チケット取扱い)

電話予約：0570-010-296 (休館日を除く 10:00 ~ 19:00/ 窓口販売あり)

オンライン予約：(PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www.geigeki.jp/i/t/>

※有料託児サービス TEL：0120-415-306

(HITOWA キャリアサポート株式会社 わらべうた (土・日・祝日を除く平日 9:00 ~ 17:00) ・要予約)

チケットぴあ

(対象演目の先行割引・一般前売チケット取扱い)

電話予約：0570-02-9999 (P コード専用)

オンライン予約：<http://pia.jp/t/festival-tokyo/>

カンフェティ

(対象演目の先行割引・一般前売チケット取扱い)

電話予約：0120-240-540 (平日 10:00 ~ 18:00 オペレーター対応)

オンライン予約：<http://www.confetti-web.com/ft2018>

※無料託児サービスあり

としまチケットセンター

(あうるすぽっと 3 階劇場事務所内)

(※あうるすぽっと上演演目の一般前売チケットのみ取扱い)

電話予約：03-5391-0516 (休館日を除く 10:00 ~ 19:00 / 窓口販売あり)

オンライン予約：<https://www.owlspot.jp/>

※当日券は一般前売 + 500 円で各会場受付にて販売いたします (学生・高校生以下チケットは前売と同料金)。

フェスティバル/トーキョー実行委員会

顧問	野村 萬	公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会 会長 能楽師
名誉実行委員長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
実行委員長	高野之夫	豊島区長
	福地茂雄	公益財団法人新国立劇場運営財団 顧問 アサヒビール株式会社 社友
副委員長	市村作知雄	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 顧問 フェスティバル/トーキョー エグゼクティブ・ディレクター
	齋藤 明	豊島区文化商工部長
	東澤 昭	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事/事務局長
委員	尾崎元規	公益社団法人企業メセナ協議会 理事長 花王株式会社 顧問
	熊倉純子	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 教授
	田中俊宏	株式会社資生堂企業文化部長
	鈴木敦子	アサヒグループホールディングス株式会社 CSR 部門 ゼネラルマネージャー
	鈴木正美	東京商工会議所豊島支部 会長
	永井多恵子	公益財団法人せたがや文化財団 理事長
	渡邊圭介	豊島区文化商工部文化デザイン課長
	岸 正人	公益財団法人としま未来文化財団 劇場開設準備担当課長
	蓮池奈緒子	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) 支配人
	米原晶子	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事長
	長島 確	フェスティバル/トーキョー ディレクター
	河合千佳	フェスティバル/トーキョー 共同ディレクター
	葦原円花	フェスティバル/トーキョー 事務局長
監事	田中真理子	豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー	福井健策、北澤尚登	(骨董通り法律事務所)

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

エグゼクティブ・ディレクター	市村作知雄
ディレクター	長島 確
共同ディレクター	河合千佳
事務局長	葦原円花
制作	荒川真由子、松宮俊文、岡崎由実子、武田侑子、新井稚菜、藤井友理、 長田崇史、四宮章吾、山縣昌雄
広報チーフ	小倉明紀子
広報	神永真美、細川浩伸、植田あす美、吉田幸恵
経理	堤 久美子
総務	米原晶子、平田幸来、藤島麻希
票券	武井和美
技術監督	寅川英司
技術監督アシスタント	河野千鶴
照明コーディネート	木下尚己(株式会社ファクター)
音響コーディネート	相川 晶(有限会社サウンドウィーズ)
アートディレクション	氏家啓雄(有限会社氏家プランニングオフィス)
イラスト	Naomi Katsu
ウェブサイト	竹下雅哉(有限会社氏家プランニングオフィス)、株式会社 Mtame
海外広報・翻訳	ウィリアム・アンドリュース
執筆	鈴木理映子

開催概要

名称 フェスティバル/トーキョー 18
会期 平成 30 (2018) 年 10 月 13 日 (土) ~ 11 月 18 日 (日)
会場 東京芸術劇場
あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター)
南池袋公園 ほか



プログラム数 主催 16 プログラム
連携 15 プログラム

主催 フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/ NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

アジアシリーズ共催 国際交流基金アジアセンター

協賛 アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社資生堂

後援 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE 81.3 FM

特別協力 西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、株式会社サンシャインシティ、東京都交通局

協力 東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、一般社団法人豊島区観光協会、
一般社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、池袋西口商店街連合会、
特定非営利活動法人ゼファー池袋まちづくり、池袋西口公園活用協議会、南池袋公園をよくする会、
ホテルメトロポリタン、ホテル グランドシティ、池袋ホテル会

宣伝協力 株式会社ポスターハリス・カンパニー、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、有限会社アップリンク



公益財団法人
としま未来文化財団

ANJ Arts Network Japan



東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre



HOTEL GRAND CITY



enpaku
早稲田大学演劇博物館



平成 30 年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業
(豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業)

※一部申請中、調整中含む

フェスティバル/トーキョー 18 は東京芸術祭 2018 の一環として開催されます。

報道関係お問合せ

→ 広報に関するお問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 広報：小倉明紀子、神永真美

TEL：03-5961-5202 FAX：03-5961-5207

MAIL：press@festival-tokyo.jp

→ ご掲載の場合の読者の方のお問合せ

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 TEL：03-5961-5202

本プレスリリースの文字データや、使用画像等の宣材は下記からダウンロードいただけます。

<http://www.festival-tokyo.jp/18/news/press-programs/>

※画像のご利用、フェスティバルや作品に関する情報をご掲載いただける折は、
上記までご一報いただけますようお願い申し上げます。

※上記ダウンロードサイト内にはない素材に関してはお問合せください。

※個別の作品に関わる取材のお申し込み等はこちらにて承ります。

